

みなとのニュース

室蘭港祝津絵鞆地区クルーズ船等受入岸壁の供用式典を開催

室蘭市 港湾部 港湾政策課

令和4年5月15日(日)、クルーズ船「ばしふいっくびいなす」を第1船に迎えて、室蘭市と北海道開発局室蘭開発建設部の共催により、祝津絵鞆地区クルーズ船等受入岸壁供用式典を開催しました。市内高校の吹奏楽部による華やかな演奏で始まった式典には、地元選出の国会議員のほか約70名の関係者が出席し、世界最大22万トン級のクルーズ船に対応可能な岸壁としては北海道・東北で唯一となる施設の供用開始を祝いました。

これまで室蘭港では、東日本最大の吊り橋「白鳥大橋」の桁下航路高(53.5m)を通過可能なクルーズ船については市街地に近い旅客船岸壁で受け入れてきましたが、通過できない大型クルーズ船は郊外のコンテナ取扱い岸壁への受け入れとなっており、寄港後に観光や景観を楽しむことについて十分とはいえない状況がありました。今般、その対岸で、かつては石炭を取り扱っていた岸壁の老朽化対策に併せて、既存ストックを活用した岸壁改良を行ったことにより、みなとオアシス「みたら室蘭」や臨海公園、市立室蘭水族館にも

近いロケーションで、かつ世界最大級までの大型クルーズ船を受け入れることが可能になりました。

室蘭市の観光の特色は、白鳥大橋が臨港部の工場夜景に彩を添えており、主塔の高さ百メートルの位置から室蘭港を一望できるインフラツーリズムや、日本遺産「炭鉄港」の歴史的な遺構など、地域のインフラや産業を観光に結びつけた取り組みのほか、天然の断崖が魅力の地球岬などの自然景観にも恵まれています。

また、車で1時間圏内には、アイヌ文化の発信拠点「民族共生象徴空間ウポポイ」や洞爺湖有珠山ジオパーク、縄文遺跡群、登別温泉もあり、こうした近郊の観光資源も活かしながら北海道の玄関口として、クルーズ振興に取り組んでいます。

なお、今回岸壁については暫定供用となりましたが、引き続き、クルーズ船着岸時に利用するバス・タクシー等の駐車場や、みなとオアシス「みたら室蘭」まで徒歩で快適にアクセスを可能とするための緑地の整備を予定しています。



供用式典の状況